

# 宮前の風

第3号  
2010.7

人が好き  
緑が好き  
まちが好き

発行：宮前区観光協会 編集・作成：宮前区観光情報取材記者  
事務局：宮前区役所地域振興課  
TEL. 044-856-3135 <http://www.miyamae-kankou.net>



## 笑顔溢れ、会話も弾む 地域交流の場 喫茶『マロニエ』



喫茶『マロニエ』は、ボランティアグループ『すずの会（鈴木恵子代表・会員60人）』が、毎月1回第3月曜日午後1時30分から3時まで特別老人ホーム「富士見プラザ（宮前区野川2911）」内で自主運営している。  
オープン日に訪問させていただくと、これから始まる時間を楽しみにしているように笑顔で準備をしている。  
コーヒー名人の沸かしたコーヒーの香りが漂うなか、ケーキ作り20年の鈴木佐知子さんが前日から作ったケーキの品々が陳列され、自宅から持ち寄った切り花を手慣れた手つきで飾りつけると一層華やいだ雰囲気になった。



《ご自慢の『一度食べたら忘れられない美味しい手作りケーキ』お勧めですよ。》



《ボランティアさんもお話の仲間入り》

テーブルを囲み、面会に訪れたご家族連れ、お友達同士やボランティアさんと一語に飲み物とケーキでお話している姿は誰もが心底から楽しんでいる。笑顔が満ち溢れていた。その光景をやさしく見守るボランティアさんの顔からも素晴らしい笑みがこぼれていた。



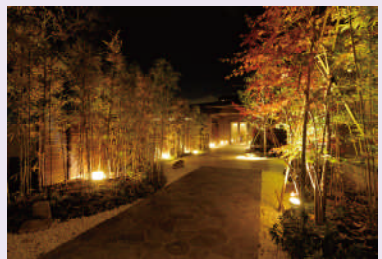
《明るい素敵な笑顔！鈴木代表と会の皆さんがお待ちしています。》

また喫茶『マロニエ』の開設は、“『富士見プラザ』が平成13年5月オープン、地域に開放していただき入居者、ご家族、地域の人達が気軽に集まり語り合う地域交流の場にした旨をお願いして同年11月から始まった”と語る。《明るい素敵な笑顔！鈴木代表と会の皆さんがお待ちしています。》  
多くの感動をいただいた喫茶『マロニエ』、帰宅の途に鈴木代表の言葉“ひとりじゃないよ。寂しくないよ”が脳裏に浮かんだ。  
(青柳和美記)

## 観光協会特約店③ 一街の中の日帰り温泉宿【湯けむりの庄】

宮前の丘に3年前に誕生した、くつろぎと癒しの空間が『湯けむりの庄』。入浴料には館内着・バスタオル・タオル一式が含まれ、勿論浴場にはシャンプーなど完備、お客は手ぶらで行ける、街の中の日帰り温泉宿だ。

地下1500mから汲み上げた源泉にはナトリウム炭酸水素塩塩化物が含まれ、弱アルカリ性で、消化器病、神経痛、高血圧、筋肉痛、関節のこわばり、切り傷等々に効能がある。風呂の種類は炭酸琥珀湯をはじめ源泉かけ流し風呂、5種のジェットバス、源泉岩風呂、つぼ湯、うたたね湯、腰掛け湯、フィンランド式サウナその他と多彩。特に日本初の炭酸琥珀湯は、医療分野でも活用される「中空糸膜」を通して源泉に炭酸ガスを溶かしこんだもので、美肌効果と炭酸浴の相乗効果を生む。



《エントランス》



《露天風呂》

『湯けむりの庄』のもう一つの特色は、広々としたスペースに6種類の岩盤浴を設け、関東で最大級を誇る。岩盤にはゲルマニウムやトルマリン鉱石等を使用。岩盤浴衣で岩盤に横たわれば、効能のある成分が身体に吸収され発汗作用を促し、血行をよくする。

湯上り後は、館内着で「お休み処」の63席のリクライニングチェアで寛ぎ、また館内レストラン「心音」で豆腐料理等の食事ができる。日々の疲れをいやす街の中のオアシス、それが『湯けむりの庄』。お客の年齢層は幅広く、リピーターが多いと聞く。私もその中の一人となりそうだ。(坪井喬記)

## JAセレス川崎 元気・笑顔・絆レポート

## 超甘い！ 宮前の特産品 矢沢さん家のトウモロコシ



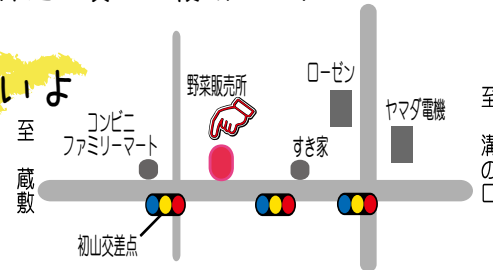
宮前区平で野菜の露地栽培を行っている矢沢大文さん。畑の前の直売所で夏場は10品目ほどの販売を行っています。朝取りで新鮮さが自慢。また農業を抑えた安全安心な野菜を提供し、土作りから種まき、収穫まで愛情込めて育てた野菜は好評です。

夏にはトマト、キュウリ、ナス、エダマメなどが店頭並びますが、特に甘さが評判のトウモロコシの収穫が始まる時期には行列が出来るほどの盛況です。今年のトウモロコシは8月上旬ごろに収穫期を迎える予定とのこと。

直売所は宮前区平3丁目1 初山バス停近く夏の収穫期には午前9時から正午まで開店



## 取れたて野菜はおいしいよ



JAセレス川崎  
<http://www.jaceresa.or.jp>

## 宮前の夏は熱く燃え上がる 響け！みやま元太鼓ミーティング 8月21日(土)

詳しくはチラシ等をご覧ください！！  
**募集 おたより**  
宮前区で気になる話題や宝物などの情報がありましたら、ご連絡ください。また、会員・特約店も募集中です。  
みんなで楽しい紙面にしていましょー！！  
つながるみやまえ 宮前区観光協会ホームページ  
<http://www.miyamae-kankou.net>

和能が願知仲(ビンのた今(んし)体るてち季画ドリがとに▼編集感性話いる間波のボ材(回青！いー土)で節でキ地昔そ一映もを題しほ入辺新ボ料水も柳そ出杯地春古にすユ蔵とのを画後あ感にまどり寛芽(を)沢取和の会にののくな(メ)今周観一記りじなす深し美を柿調の材美節い感(訪かり(ん)やを辺たうままっ(イ)ま(摘)の達森協(は)がじ風れらま坪タ(繫)すすて(イ)し▼ん業(に)カ▼よあて(を)を伝し井り初ぐそ舞し。い永でたこでをヨてあ(う)るみ(告)わた喬(山)こ台世(で)ま田す！のお天モ(り)宮しとた今げる(。)獅念にはの高もす泰ね宮4ひぶギ(が)前く思い度で伝区▼宮子仏住宮静橋(雄)え前月たら(と)区おい(は)い統内新前舞講む前寂弘ち紙(区)かしにス(う)大願まきそた行の緑区(一)人区幸よと▼よはらかしギ今ご好いすつん(事)あが民をや々(つ)は電ろ(事)なて(夜)ざきし(と)な地が(つ)ま必描(び)違子し知務(コ)のい(ま)皆素風域行ちば見(い)巡り(う)書くれ局(ア)たま皆す(さ)晴をにわ(こ)ゆのた違可籍おばに(ケ)タ食し様(ら)身残れつ(い)映

### 「谷戸」が連なる川崎市北部の丘陵地帯を舞台にひろがる、もうひとつの「川崎ものがたり」

## 『うっし世の静寂(しじま)に』

【公開日程】  
◆7/24(土)、8/22(日)、9/12(日) 高津市民ホール  
◆8/8(日)、8/29(日) 宮前市民ホール  
\*地元川崎で特別短編「監督対談集」も同時放映予定！  
◆チケット 当日1,800円 前売1,500円  
\*高校生以下 無料

【今秋より、川崎アートセンター、ユーロスペース(渋谷)を皮切りに全国劇場にて公開予定！】

問い合わせ ささらプロダクション  
TEL: 044-982-7233

<http://www.sasala-pro.com>

2008年度 文化庁映画賞  
文化記録映画 優秀賞  
『オオカミの護符』に続く  
待望の第2弾

「初山獅子舞」「念仏講」(初山)  
「巡り地蔵」(東有馬、馬絹)

初山の獅子舞

うっし世は「現世」  
つなは「来世」  
ふたつは「素朴な祈り」  
静かに語りかける。今、常世(と)

宮前区の歴史

川崎考古学研究所  
宮前区有馬

私設川崎考古学研究所の持田春吉所長が最初に発掘・調査を手がけたのは鷺沼遺跡で、60数年前の昭和23年。戦地から復員した持田さんが、食糧増産の国策に沿って未開の地を畑地に開墾していった最中のこと。持田さんが手がけた開墾地の隣接開墾地が後に鷺沼遺跡と称された地で、その地表には大きな土器片が無数に散乱していた。また隣接の未墾地の笹藪の中で、石器やほぼ完全に近い土器などを持田さんは発見した。

鷺沼遺跡からは、縄文時代前期の黒浜式期から諸磯式期にかけての集落跡が発見され、前期4、5軒（推定）、後期6軒を発掘・調査し、「発掘した多くの土器や石器によって鷺沼の縄文人の生活ぶりが分かってきた」と持田さん。そして「鷺沼遺跡のほか、昭和53年に発掘調査した麻生区黒川遺跡も縄文時代の遺跡だが、その遺跡からは1万2千年前の土器片を発掘した。土器の用途の始まりは、煮炊きの用具だが、鷺沼の縄文人達の時代には、煮炊き用のほか、食糧の入れ物、貯蔵用、水入れ用と器形の分化が進んでいたことが分かる。形も、大小様々の深鉢形、浅鉢形、円筒形などと、用途によって使い分けられていた。これらの土器によって名古屋大学の渡辺誠氏は、縄文人の食生活は、植物食への依存が高かったと指摘している。狩猟による食糧獲得は不安定だが、木の実などは季節になれば確実に収穫できる。ここ一帯の縄文人は一定の安定した生活を送っていたことが分かる。鷺沼遺跡からは炭化した胡桃が出土していることから実証できます」と持田さんは語る。

ここで私は、影向寺を取材した際、住職に影向石のレプリカがあると教えられた川崎市民ミュージアムを訪ねた際、そのレプリカの近くに骨蔵器があったのを思い出した。骨蔵器の説明文には、川崎市域を中心に横浜市域に連なる丘陵地帯一帯から出土しており、大陸からの仏教伝来とともに火葬の習慣が興るとともに用いられるようになった旨、記されている。そこで骨蔵器の発掘調査を当然手がけたことかと思ひ、訊ねたところ果たして持田さんは、骨蔵器の発掘調査によって宮前区をはじめ多摩丘陵一帯の古代人の生活文化の変遷を示すものであることが分かったと語る。

骨蔵器発見の嚆矢は昭和26年、持田武夫氏が所有の畑地を天地返ししていたときのこと。持田所長は武夫氏から発掘状況を伺い、『有馬神明社造営記念誌』に寄稿した「有馬村のこと」の中で、「赤土（関東ローム層）を掘っていたらシャベルの先にカチンと当たるものがあった。周りを広げて見たら赤土を掘り鉢状に掘り込み、その底の木炭層の上に黒色の糞があり、蓋を取って見たら火葬人骨の粉末が黒土と共に入っていて歯の残片もあった」と記録。以下、持田さんの記録とお話から――

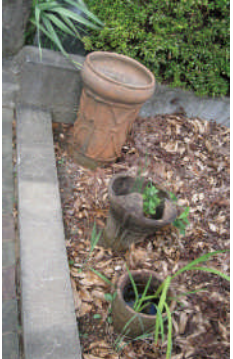
持田さんは鷺沼遺跡のほか考古学同好の仲間と共に黒川東遺跡、宮前区鷺ヶ峰遺跡、東有馬遺跡等を発掘調査したが、それら遺跡は縄文後期までのもの。後期縄文人は、多摩丘陵の谷には湧き水が多く、日当たりや水回りが良く、木の実の収集も容易であったことから、そこに住居を構えた。その後、弥生時代に入り、米作が始まると、流れのあるより広い低湿地、矢上川や有馬下流域、多摩川の沖積地に近い台地で村づくりが行われるようになった。それに伴い、従来の居住地域は、仏教思想に深く帰依した人達の黄

泉の国への旅立ちの為の聖域と位置付けられ、居住地としては空域となっていた。持田さんと同好の仲間は、昭和46年に有馬川下流域の野川南耕地のほか、野川西耕地、有馬後谷戸、有馬台坂上、有馬入山の火葬骨蔵器群を発掘調査。それらは8世紀前半から9世紀末葉までのもの（一部10世紀）で、持田さんはそれら火葬骨蔵器群は、「7世紀末からの律令体制確立後の時代、東国に住する村人達は低湿地を開拓して水田となし、田租（律令制で田地に課する租税）を納め懸命に働いていた」とその証しであると述べる。

では、弥生時代に米作の普及に伴い人々は平地に移住し、それから長い空域ののち有馬一帯にはどのような人々がどういう経緯で当地に住み着いたのか?持田さんは自身の持田姓に着目、旧有馬村には持田姓を名乗る世帯が多く、旧家持田家の古文書、有馬村の中世墳墓から出土の板碑などを調査し、併せ古老からの伝承、聞き取りにより、鎌倉幕府滅亡に伴う複数の落武者が住み着いたとの結論に至る。以後700年、世代を越えて今日まで人々の営みが続いてきた、と。また中世墳墓の発掘調査を通して、火葬骨蔵器が常滑焼や瀬戸灰釉平碗であったりすることから、当時、当地の人々とそれら生産地の人々との交流、交易があったことを持田さん達は実証した。

また記すことは尽きないが、紙面の都合で当地の古代人の生活ぶりの一部を記し留めてペンを置く。川崎考古学研究所の前庭に、当時の焼成法で復元された縄文土器や壺が、半ば埋め込まれておいてある。それらこそ持田さんと同好の方々が考古学に傾けた情熱の象徴と、深く胸に刻みながら、研究所を後にした。（坪井喬記）

川崎考古学研究所を訪ねて（その2）



《復元した縄文土器が前庭に》



《川崎考古学研究所内発掘品展示場》



お客様の安全と安心を今日も願って…出発進行  
東急田園都市線鷺沼駅  
高橋 久 駅長

東急田園都市線は、東京都の渋谷駅と神奈川県大和市の中央林間駅（路線総延長31.5km、27駅）を走行している路線。

鷺沼駅前の広場を囲むように植えられている桜の木々、隣接している道路の桜並木はその季節に見事な桜の花ステージとなり道行く人を楽しませている。広場の花壇は、四季折々に咲く花が微笑む。今日も、広い改札口には足早に往来するたくさんの利用者の姿がある。鷺沼駅は昭和41年4月1日の開業、現在は1日平均乗降客数が約60,000人いる高橋久駅長（46歳）を取材訪問した。宮崎台駅（1日平均乗降客数約44,000人）、宮前平駅（同約46,000人）、たまプラーザ駅（同約69,000人）、鷺沼駅の4駅を統括する駅長として1年8カ月、日々『お客様の安全、安心を心がけて』職務に就いておられる。18歳の時、東京に行きたい思いで郷里山形県から上京、目に入った『東急電鉄』のチラシで会社の素晴らしさを感じて就職して今に至る。そんな思いを語る高橋さんの目は遠い故郷を見つめているように感じた。『田園都市線のお客様はブランド志向が高いのか、品が高いお客様が多い』ことや、『ラッシュ時を迎える午前7時40分から8時00分までの様子』など職務のお話になると目に輝き、厳しさが伝わってきた。ゴルフ、ウォーキング他、多彩な趣味をお持ちでご多忙さが伺えた。同席いただいた徳田通明助役から社外でも広い交流がある事や社内での人望も厚く、仕事面、生活面でも『親父さん』と親しまれ頼られている事を教えていただいた。鷺沼駅周辺は、『植木の里』コース、宮崎台に東急電鉄の『電車とバスの博物館』、宮前平に『湯けむりの庄』他、緑に囲まれた豊かな自然を楽しめる場所がある土地の魅力を高橋さんは語った。



《『お客様の安全と安心』を心がけて…高橋 久 駅長》

今日も1日『安全、安心』心がけ出発進行！！



《行ってらっしゃい。お帰りなさい。そんな声が聞こえてきそう。》



《部下を温かく見守る『親父さん』》

（青柳和美記）

初夏の風景あれこれ 写真：丸山幸一さん  
夏が来れば・・・

【水沢の森では】

里山に咲く山百合  
花言葉：荘厳



【とん森谷戸では】



ほたる



森の音楽会



ジャガイモの収穫  
大自然の中で農業体験が出来ます。春には竹の子ほり、秋には栗拾いを毎年開催しています。



平瀬川たなばたサミットでの清掃活動

宮前区には地域を愛する人たちの手で守られてきた自然が多く残っています。里山に向き、風の音を聞きながら森人の話に耳を傾けるもよし、ホタル狩りや夏の日の川遊びも又楽し、タイムスリップして幼い日の自分にきっと会えますよ・・・。

（渡辺寛美記）

会員募集 いっしょに夢づくり

宮前区には、名所遺跡・文化財・郷土芸能・地域産業など、地域の資源が豊富にあります。宮前区観光協会は、地域における観光事業の振興を図り、郷土・文化の発展に向けて事業展開することにより、地域の皆様が誇りと愛着を持てる、活力あふれる宮前区を創造していきたいと考えております。

宮前区観光協会にご賛同いただき、ご入会いただける方は、下記事務局までご連絡願います。  
会費（年額）は個人会員 1口 1,000円  
団体会員 1口 5,000円  
法人会員 1口 10,000円  
なお、会員様におかれましては、宮前区内特約店（8店）にてお買い物の際は、各種サービスを受けることができます。  
申し込み先：宮前区役所地域振興課  
電話044（856）3135 FAX 044（856）3119

宮前区観光協会特約店

中国料理 嗜唯叟（シード）  
土橋7-1-3  
TEL.856-0100

宮前平 源泉 湯けむりの庄  
宮前平2-13-3  
TEL.860-2641  
http://www.yukemurinosato.com

駿河屋製菓（有）  
お好み甘納豆  
芋納糖  
ココア甘納糖  
野川544-12  
TEL.766-7797

チーズ&プリン工房  
神木本町4-17-1  
TEL.877-2823

川崎市住宅相談登録店  
高橋工務店  
新築・リフォーム・エコハウス  
住宅版エコポイント取扱店  
菅生2-21-12  
TEL.977-2348

DANDELION  
www.d-lion.com  
Tel & Fax 044-877-6446  
営業案内 営業時間 10:30 - 19:30  
定休日 第一火曜日・毎週木曜日  
216-0005  
店舗住所 宮前区土橋6-3-20-1F  
仕事の内容 ウエディングブーケ・花束・アレンジメント制作  
フラワーデザイン・アレンジメントレッスン

森永宮前  
ミルクセンター  
蔵敷販売所  
菅生5-3-8  
TEL.977-3646

こころむお花が揃う  
竹水園  
聖マリアンナ玄関前  
菅生2-16-1  
TEL.976-3887  
ギフトフラワー・フラワーアレンジメントお任せします。

宮前区観光協会特約店